



計量やまがた

(一社)山形県計量協会
〒990-2473
山形市松栄二丁目2-1
電話 (023) 644-9811
FAX (023) 644-9810
<http://www.keiryou-yamagata.net/>
E-mail: keiryou-yamagata@sepia.ocn.ne.jp

**適正な
計量・計測は
地球を救う**

令和7年度 東北・北海道計量大会

新年明けましておめでとうございます。



年頭の挨拶

会長 河合直樹

令和七年(二〇二五年)は、世界十七か国が参加してメートル条約が締結された年(一八七五年)からちょうど二五〇年の節目にあたる年でした。また、一八七五年(明治八年)は日本で初めて度量衡法規となる「度量衡取締条例」が公布された年でもあります。そのような記念すべき年に山形の地で東北・北海道計量大会を開催できたことは、とてもうれしく、また誇らしく思う次第です。

職員の退職などにより、業務多忙な状況が続く中、実行委員会を立ち上げ準備を進め、お陰様で一五〇名近い関係者が一堂に介し、盛大に開催することができました。自画自賛ではありますが、山形らしく、とてもフレンドリーで、おもてなしの心を感じる大会であったと思います。ご協力いただいた理事の皆様、会員事業所様、そして職員諸君にこの誌面をお借りし、改めて感謝申し上げます。ありがとうございます。

計量制度は長い歴史の中で、経済の発展と文化の向上、そして、国民の安全・安心な暮らしを支えてまいりました。さて、「安全」と「安心」という言葉は対で使われることが多いのですが、両者の違いを理解して使っておられる方は少ないのではないのでしょうか。安全の定義は、国際規格で「許容できないリスクがないこと」と明確に定められてい

ます。しかし、安心には明確な定義はありません。ある人が「リスクの存在を忘れていられる状態を安心という」と言っておりました。例えば、喉が渴いたので、蛇口をひねって水を飲む。(そんなことができる国は、日本を含め世界で十カ国くらいだそうです)その時、その人は、おそらく水に含まれる化学物質や細菌類によるリスクの存在などは意識せず、安心して水を飲んでいきます。しかし、その前提として、誰かがちゃんと水道水の品質を管理してくれているという信頼関係がそこに存在しなくてはなりません。計量の仕事もまさにそのようなものではないでしょうか。一般市民のほとんどは、そのほうが正確かどうかなどと意識することはないと思います。それはある意味、計量制度そのものへの信頼性が担保されているからに他なりません。しかし、データの改ざんなど、今まで培ってきた信頼関係が一気に地に落ちてしまうような不祥事は枚挙に暇がないくらい発生しています。

私たちは、そのことを強く意識しつつ、先達が築いてきた長い伝統と歴史の上に成り立っているこの暗黙の信頼関係というべきものを維持・発展させていかななくてはなりません。このことを肝に銘じ「計量人」としての誇りを持ち、新たな気持ちで、今年も業務をスタートしましょう。関係各位のご多幸を心からお祈り申し上げます。



山形県産業労働部産業創造振興課
鉱山鉱害防止主幹 倉 金 智 一

新年明けましておめでとうござい
ます。

貴協会におかれましては、本県の指
定期検査機関・指定計量証明検査機
関として、適正な計量業務の実施に御
尽力を賜り、心より感謝申し上げま
す。また、会員の皆様には、本県の計
量行政の推進にあたり、日頃より御理
解と御協力を賜り、厚くお礼申し上げ
ます。

さて、最近の我が国の経済は、米
国の通商政策による影響が自動車産業を
中心にみられますが、緩やかに回復し
ております。本県の状況についてみま
すと、個人消費は、底堅い動きとなっ
ており、鉱工業生産は、電子部品・デ
バイス工業などで堅調な動きがみら
れ、緩やかに持ち直しております。雇
用は、あらゆる分野で人手不足が続い
ており、有効求人倍率は高い水準で推
移しております。

また、本県産業を取り巻く環境は、
少子高齢化を伴う人口減少の加速、人
手不足の深刻化、物価高騰など厳しい
状況が続いています。このような中、
多様化・高度化する企業ニーズや社会
課題の解決に向けては、多様な主体と
の「共創」と、従来の視点に捉われな
い積極的な「挑戦」により、先行き不
透明な未来を切り開いていく必要があ
ります。

県では、昨年度末に策定した「山形
県産業振興ビジョン」に基づき、イノ



山形市計量検査所 所長 東海林 俊彦

新年明けましておめでとうござい
ます。皆様におかれましては、健やかに
新しい年をお迎えのこととお喜び申し
上げます。

貴協会におかれましては、山形市の
指定期検査機関として、適正な計量
の実施に向けた御尽力に感謝申し上げ
ます。また、会員の皆様には、計量行
政の推進にあたり、日頃より御理解と
御協力を賜り、厚く御礼申し上げます。

さて山形市では、将来にわたって元
気で活力あるまちであり続けるため
に、経営計画である「山形市発展計画
二〇三〇」を昨年スタートいたしました。
引き続き「健康医療先進都市」
「文化創造都市」の二大ビジョンを堅
持するとともに、産業、雇用、医療、
福祉、教育、文化、スポーツといった
都市機能の維持と、それらをつなぐ公
共交通等の都市インフラの充実や子育
て施策の充実など各種政策を積極的に
推進し、山形市が持つ強みを活かした
ながら、持続可能なまちづくりを進めて
まいります。

さて計量制度は、私たちの日常生活
の基準であり、市民生活における最も
基本的かつ根幹をなすものです。

昨年を振り返りますと、山形市計量
検査所として、商品量目、燃料油メー
ター、証明用電気計器（子メーター）
の立入検査を計画どおりに実施するこ
とができました。また、貴協会、山形

県との共催事業として「親子はかり作
り教室」を開催し、棒はかりを作り、
はかりのことを学ぶことで、計量に関
心を持っていただける機会を提供でき
ました。さらに山形県立図書館にて
「くらしと計量展」を開催し、来場者
の皆様は、楽しみながら計量の大切さ
を認識していただくことができました。

特に昨年は、全国的に子供向けの計
量教室の開催が少ない状況から、経済
産業省計量行政室が開催した、第五回
計量教室開催支援オンラインセミナー
の講師を務めていただきました。計量
行政室からは「他県の模範事例だと思
う」「非常に聞きやすい講義だった」
「情熱を持って普及事業に取り組んで
いただいております、素晴らしい」など
高い評価をいただきました。改めて御
礼申し上げます。

本市では今後も、特定計量器定期検
査の適正な運用、立入検査業務の強化
や、子供を含めた一般消費者を対象と
した各種啓発事業を積極的に実施して
参ります。貴協会におかれましては今
後とも、より一層の御支援、御協力を
賜りますようお願い申し上げます。

結びに、山形県計量協会の益々の御
発展と、新しい年が会員の皆様にとり
まして飛躍に満ちた輝かしい年になり
ますことを御祈念申し上げ、新年の御
挨拶とさせていただきます。



新年のご挨拶

環境計量証明部会長 大高 廣志

二〇二六年新年明けましておめでとうございます。

本年はイタリヤのミラノ・コルティナ・ダンベツツオで開催されます冬季オリンピッククイアーであり多くのメダル獲得が期待されています。

本年の干支は、十二支の七番目の午で、太陽が高い正午位置であり、動物の馬は、力強く駆け、勝負運、行動力等が表され、オリンピックにふさわしい年でもあります。

二〇二五年は、新型コロナウイルスが鎮静化し平穏な生活が送れる筈が抑えられていたインフルエンザ等のウイルスが流行した年でありました。

又、昨年の漢字の熊は、山の実の不作の年と里慣れした熊の出没で農作物の被害だけでなく人間に対して痛ましい事態が発生し動物との共存より人的被害を少なくするために駆除の体制が強化された。一方では、米騒動、気温変化の他に、豪雨災害、地震、住宅地森林の大火災と災害が多発し、気象状況による漁業、農産物の産地変化など地球温暖化による環境変化が激しい年でもありました。

政治は、憲政史上始めての女性総理大臣が誕生して、働いて、働いて、働いて：が流行語大賞に選ばれ、更に強いリーダーのイメージが出されるとともに、大型補正予算組まれ、減税も行われているが、一発言から近隣国とのギクシャクが続いております。

本年二〇二六年は、政府の景気対策として利率のアップ、円高、インフレ、及び、未来の投資の政策が進めら



新年のご挨拶

計量士部会長 竹田 和彦

新年あけましておめでとうございます。

皆様にはご健勝にて新年をお迎えのこととお慶び申し上げます。

二〇二五年、国内での一番の注目は、大阪で開催された「二〇二五年日本国際博覧会（大阪・関西万博）」ではないでしょうか。

「いのち輝く未来社会のデザイン」をテーマに、世界中から二五〇〇万人の人が訪れ、新しい技術や文化に触れる絶好の機会でありました。

残念ながら、私自身は訪れる機会はなかったのですが、特に科学技術の進歩、人工知能（AI）技術が私たちの生活やビジネスに急速に浸透し、常に進化を続けているように思えます。

現在のAI技術は、より人間に近い理解力と行動力を備えており、計量の世界にも、AI機能を備え付けた機器開発・分銅校正の自動化等、様々な分野で革新され続けているので、近い将来見たこともないような計量技術の推進に期待したいと思えます。

さて、昨年度の東北・北海道計量士協議会は青森県主催で行われ、来賓挨拶の中で日本計量振興協会の金井副会長より、指定検定機関の指定講習日程及び自動はかり三器種（ホッパースケール、充填用自動はかり、コンベヤ）を使用の制限から除外する

等のJIS改正が決定された等について計量制度の情報提供がありました。

また、既に検定業務が開始された自動捕捉式はかりの検定への連携・協力について様々な意見が述べられたが、各道県ともまとまらない状況が続いているように見受けられました。さらに共通の話題としては、計量士の人材不足及び育成はどの都道府県も共通の課題となつていることが再認識されたようでした。

次期開催県は山形県となりますので、東北・北海道で活躍する計量士の知識・技術の研鑽する場として、活発な意見等が飛び交う会議になるよう頑張ります。

当部会も益々、計量法制度、計測機器に関して、計量士としての最新の技術と知識の習得に努めていきたいと思えます。

最後に会員皆様のご多幸と益々のご発展を祈念いたしました。新年のご挨拶とさせていただきます。



産業創造振興課からのお知らせ

産業創造振興課計量担当の業務内容

- ・計量関係事業者の登録及び届出等
- ・商品量目、特定計量器、計量関係事業者への立入検査
- ・計量法に基づく指導、啓発
- ・委託先の計量協会との連絡、調整

令和 7 年度の人事異動後の配置職員

- 産業創造振興課長 杉原 貴幸
- 山形市松波二丁目8番1号
電話 023 (630) 2115
- 主 査 倉金 智一
- 主 査 佐藤 真一
- 主 事 阿部 彩里

連絡先

山形市松波二丁目8番1号
電話 023 (630) 2115

計量行政の動向について

計量関係手続きについて、一部を除いて、書面等への押印は不要としております。

計量器販売事業者へのお願い

計量法では、取引・証明に使用する計量器は、検定証印等が付されているものであり、二年に一回の定期検査を受検することとされています。

取引は、継続的に商品を計量し、販売すること等が該当します。証明は、他人に一定の事実を表明することとされていることから、学校、幼稚園、保育所等での健康診断における体重測定のための計量や、医療機関等で行われる調剤のための計量も該当します。

計量器の販売に際しては、計量器がはかることができる重さの範囲や、顧客の用途を十分確認の上、取引・証明に使用する場合は、検定証印等が付された計量器を販売していただき、併せて定期検査の受検義務についても周知して、くださるようお願いいたします。

計量証明事業者へのお願い

計量証明事業を行う場合は、県への登録が必要です。登録は、計量士又は主任計量者が計量管理を行うものであることが要件の一つになっており、欠けた場合は、計量証明書の発行ができません。

県では主任計量者の資格取得のための主任計量者試験を年二回（例年六月と十二月）開催しています。計量管理を行う主任計量者が欠けることがないように、計画的な受検の検討をお願いします。

また、計量証明事業者が保有する計量設備に関しては、設備ごとに定められた期間により、計量証明検査を受検する必要があります。受検漏れのないようお願いします。

更に、計量証明に使用する設備や主任計量者の変更等、届出が必要となる場合があります。変更が生じた際は、届出要否の確認と届出の提出をお願いします。

詳しくは、産業創造振興課までお問い合わせください。

山形市計量検査所からのお知らせ

全国特定市計量行政協議会

全国の特定市（百二十六市）で組織しており、特定市間の緊密な連携を図り適正な計量の実施を確保するため、各種事業を実施しております。

なお、令和七年度全国特定市計量行政協議会東北地区会議が青森県八戸市にて開催され、情報交換を行いました。

特定計量器定期検査

平成十八年より、一般社団法人山形県計量協会を山形市の「指定定期検査機関」に指定し、定期検査の全部を委託しました。

定期検査は、商店・医院等で取引又は証明行為に使用する特定計量器を対象に、山形市内を東西に分け、二年に一回の周期で実施しており、令和七年度は西部地区の検査を実施しました。

立入検査

①商品量目立入検査

全国計量行政会議（事務局・経済産業省）の実施計画に基づき、全国一斉商品量目立入検査として実施しました。

- ・立入事業所 市内量販店等十店舗
- ・検査結果

立入検査を行った十店舗全てにおいて、量目不足は確認されず、適正計量を行っていました。今後も適正計量の継続をお願いします。

②燃料油メーター立入検査

計量器の封印線の着脱及び検定有効期間の管理状況について、令和八年一月以降に市内の事業所に立入検査を実施する予定です。

実施する予定です。

- ③証明用電気計器（子メーター）立入検査

検定証印等の有無、有効期間及び封印の状況等についての検査を実施しました。

- ・実施月 令和七年十一月
- ・立入事業所 市内十二事業所
- ・検査台数 十二台
- ・検査結果

検定証印、有効期間及び封印状況のいずれも適正であることを確認しました。

啓発事業

- ①親子はかり作り教室

夏休み期間中に、山形県産業創造振興課及び山形県計量協会との合同で親子参加型の啓発講座を開催し、計量に関する関心の醸成を図りました。

②くらしと計量展

十一月一日の計量記念日にちなみ、山形県産業創造振興課及び山形県計量協会との合同で、山形県立図書館にてはかり作り教室、計量クイズ、重さ当てクイズ、はかり検査体験、計量啓発パネルの展示等のイベントを開催し、来場者に対して計量に関する意識の向上を図りました。

実施月／立入店舗数	前期 6・7 月／5 店舗	後期 12 月／5 店舗
検査商品数	前期 257 個	後期 231 個
不適正商品数	0 個	

令和七年度 東北・北海道計量大会 第七十二次東北六県北海道計量協会連合会総会

令和七年度東北・北海道計量大会及び第七十二次東北六県北海道計量協会連合会総会が、当協会当番により、令和七年十月二日（木）山形市の「ホテルメトロポリタン山形」に於いて計量行政機関、計量団体、会員等関係者約一五〇名が一堂に会して開催されました。本県から五十七名の参加と大会運営にご協力をいただきました誠にありがとうございました。

◎東北・北海道計量大会

はじめに昨年度物故者へ黙祷を捧げ、河合直樹東北六県北海道計量協会連合会会長（一社）山形県計量協会）挨拶後、長年、業界の発展並びに計量思想の普及啓発に尽力された方々への計量功労者表彰が行われました。

本県からは、環境計量士として、環境測定、分析の他、病院清潔区域の環境管理業務、感染症対策など幅広い分野で社会に貢献された野崎新治氏（㈱テトラス／環境計量士）と、代検査や定期検査業務に従事し、永年にわたり適正な計量の推進と計量協会の発展に尽力された高橋正孝氏（当協会職員／一般計量士）が受賞され、表彰状と記念品が贈呈されました。



計量大会を記念し、スマイルやまのべ様へ「車椅子体重計」を寄贈。その後、当協会武田憲一副会長が大会宣言を読み上げ、満場一致で採択され、本大会は滞りなく終了しました。

◎連合会総会

大会に引き続き、第七十二次東北六県北海道計量協会連合会総会が、河合連合会会長を議長に開催されました。提案議題は次のとおりです。

議題一、既使用「自動捕捉式はかり」の円滑・着実な検定実施に向けて（福島県）

議題二、連合会総会の次期開催地について（山形県）

議題一については、福島県計量協会 佐藤弘美事務局長より、令和九年度から既使用「自動補足式はかり」の使用制限開始に向けて、講習会の開催や周知により円滑な検定実施に尽力されているが、結果として、検定漏れが生じる可能性は否定できない。これについて国及び関係機関に対応策を求めた。

※参加者の発言

◎経済産業省イノベーション・環境局 計量行政室 仁科 孝幸 室長

一昨年度より開催している事前説明会参加者へのメールや経済産業省HP内で早期受検のお願いを掲載している。また、都道府県自治体への協力要請、指定検定機関にも関係する使用者への早期受検の働きかけの協力を依頼している。

◎産総研計量標準普及センター 法定計量管理室 伊藤 武室長

産総研としては、「自動補足式はかり」に関してJISで定められている検査回数（六〇回）の効率化の研究を重ね、減らしても問題がないと判断されれば、JISの改正を提案していく。

◎（一社）日本計量振興協会 宮沢 敬治 専務理事

昨秋より、指定検定機関と情報交換を開催し、計量士が臨時社員としてエントリーする際の不安が解消されるよう情報を調査している。また、検定を実施する上で必要な講習会を引き続き開催していく。

議題二については、次期開催地を宮城県とする事に全会一致で承認され、大会旗が本県計量協会 河合会長から宮城県計量協会 鍋島会長に引き継がれ、連合会総会は無事閉会しました。

◎記念講演

「けん玉と歩んだ三〇年」



◇プロフィール◇

- ・東京都青梅市出身（42歳）
- ・現在は地域おこし協力隊として長井市在住
- ・2008、2009年 全日本けん玉パフォーマンス大会 グランプリ
- ・2014年 第1回けん玉ワールドカップ 3位（日本人トップ）
- ・2023年 けん玉ワールドカップ 40代の部1位

◎歓迎レセプション・懇親会



乾杯の様子



山形舞妓の演舞



パスラボ山形ワイヴンズ チアリーダーのパフォーマンス



けん玉選手権

計量功労者表彰 ～おめでとうございます～

令和七年度に計量功労者として次の方々を受賞されました。

◎（一社）日本計量振興協会会長表彰
武田 憲 一 氏（協会副会長）

◎（一社）山形県計量協会会長表彰
坂井 順 一 氏（㈱三和技術コンサルタント）
齋藤 浩 之 氏（トキコシステムソリューションズ㈱）

◎東北六県北海道計量協会連合会会長表彰
野崎 新 治 氏（㈱テトラス代表取締役）
高橋 正 孝 氏（協会職員／一般計量士）

2025 計量思想普及・啓発事業

(山形県・山形市・計量協会共催)



親子はかり作り教室

～8月2日(土)～

小学生を対象とした夏休みの特別企画「親子はかり作り教室」を山形市消費生活センター(霞城セントラル内)にて開催いたしました。



当日は小学生とその保護者15名の参加があり、日常生活で関わりのある計量器や計量法など計量に関する知識を講師の解説やクイズを通して学びました。棒はかりの作成に苦戦した児童もいましたが、保護者の手助けもあり最終的に全員が完成させることができました。

また、完成した棒はかりを使い保護者の車のカギや記念品の虫眼鏡などの重さを計りデジタルのはかりの数字と比較しその精度を確かめたりしていました。



くらしと計量展 In 山形県立図書館 ～10月25日(土)～



はかり作り教室

夏休み特別企画として行っている、はかり作り教室をくらしと計量展でも開催しました。リピーターの方にもお越しいただき、昨年より成長した姿を見せてくれました。

重さ当てクイズ

重さ当てクイズでは100gの見本(おもり)を用意し自分の感覚や見本(おもり)と比べながら、ビー玉やスーパーボールを用いて100gを目指していただきました。±3g以内にできた方に記念品をお渡ししました。



はかり検査体験

今回からの新企画として、はかり検査を実際に体験していただきました。バネ式指示はかり・電気抵抗線式はかり2台を用意し、水平・ゼロ点調整、分銅を使用し検査を行っていただきました。結果は観測紙に記入し、最終的に合否を判定していただきました。



パネル展示

10月1日から10月31日の期間中、山形県立図書館の一区画をお借りし、計量に関するパネルやキログラム原器の模様の展示。また、山形県立図書館に所蔵されている計量に関する書籍の展示も行いました。

計量器・分銅の計量管理

■計量機器、測定機器及び分析機器の検査、校正実施いたします。

当協会では、適正な計量器（はかり）、分銅の使用観点から、生産工程・品質管理などで使用されているはかりや分銅の検査、校正を実施しております。これらの検査、校正は適正な計量管理や信頼性の向上等に繋がりますので、御要望のある方は、ご連絡ください。

◆詳細は、当協会ホームページ若しくは次のQRコードをご確認ください。



校正のご案内 (PDF形式)



第四十五回東北・北海道計量士協議会

この協議会は、東北・北海道をもって組織し、計量士の技術の向上発展並びに相互の連絡協調を図ることを目的とし、毎年一回輪番制で開催している。

◆期 日

令和七年十一月二十八日(金)

◆場 所 アップルパレス青森

◆主催 県

(一社) 青森県計量協会

◆来 賓

青森県経済産業政策課

計量検定GM総括主幹

千葉 茂 氏

(一社) 日本計量振興協会

副会長 金井 一榮 氏

◆出席者 二十三名

来賓挨拶の中で、金井副会長より、「全国計量士大会」、「自動はかりのJIS改正」、「指定講習会」等、今後の計量制度の動向及び日程について説明された。

《議 事》

青森県計量協会 蝦名事務局長が議長となり、各道県より提案された議題及び情報交換について協議が行われた。

【議 題一】

計量士の県を跨いだ広域活動の

在り方について

【情報交換二】

指定検定機関との連携・協力に係る関係事務等の進捗状況について

【情報交換三】

計量士等の育成・確保について

【議 題四】

次回開催地について

各道県から活発な議論が交わされ、特に計量士の人材育成・確保は各道県の早急の課題であったが、具体的な良案は出ない状況であった。

また、令和八年度は山形県での開催が了承された。



あ と が き

新年あけましておめでとうございませす。新たな年の初めを迎え、皆さまには健康やかに過ごしのことと、お慶び申し上げます。

「計量やまがた」も一〇一号の発刊を迎えることができました。これもひとえに会員皆様のご支援ご厚情の賜物と心より感謝申し上げます。

私事ではございますが、昨年二〇二五年は茨城県つくば市にある「国立研究開発法人産業技術総合研究所」に一般計量教習を受講するために九月から三月月ほど行っておりました。

日本各地から計量に関わる方々が計量士の資格取得のために集まり共に学習するというまたとない経験をすることができ、多くのことを学ぶことができました。計量士としての基礎知識などの学習も重要ではありますが、それ以上に人の繋がりが多く出来たことが一番の成果であるように思います。

本年も一月から一般計量特別教習として二ヶ月ほどの講義、実習を受講する予定になっており、更に難解な内容になると予想されますが、計量士になれるように励みたいと思います。

最後になりましたが、これから本格的に寒くなる時期となりますが、皆様のご健康とご多幸を心からお祈りいたします。

(東海林)



株式会社シーアンドワイ

〒990-2161 山形県山形市漆山字大段1865番地5
 TEL : 023-687-1350
 FAX : 023-687-1355
 E-Mail : office@y-candy.co.jp
 URL : <https://www.y-candy.co.jp>

事務機器、事務用品販売・修理

環境関連の各種測定分析(大気・水質・騒音・振動)
 作業環境測定(粉じん・特化・金属・有機)・労働安全衛生関連業務



株式会社 テトラス

〒990-0868 山形市大字志戸田550番地
 本社 TEL 023(643)3226 FAX 023(645)6733
 庄内ラボ TEL 0234(31)1771 FAX 0234(31)1711

株式会社 荘内計装

計量士 竹田和彦

(株)クボタ計装 販売・サービス協力会社
 (株)エー・アンド・デイ サービス代理店

TEL 0234(33)2011 FAX 0234(33)2001
<http://shonaikeiso.co.jp>

〒998-0061 山形県酒田市光ヶ丘1-7-18

生コンクリート・二次製品製造業用計量・計測器及び材料試験機検査・修理・販売
 営業品目

生コンバッチャースケール・各種はかり・材料試験機・エアーメーター・シュミットハンマー・塩分濃度計・恒温水循環装置・ペーパー処理装置・試験器具全般・その他、プラント及び試験機改造工事・保守管理等も行なっております。



自動計量包装値付機
AW-5600II



対面計量ラベルプリンタ
SM-6000FF

寺岡はかり —生き残る為のツール!—

- POSシステム・顧客情報システム
- レシートラベルプリンター
- 自動包装機
- 計量器総合

株式会社 協立商会

山形営業所 山形市馬見ヶ崎2-1-1 ☎(023)681-2015
 庄内出張所 鶴岡市平京田屋敷廻71-4 ☎(0235)22-3470

地域に選ばれ続ける
 会社を目指して

高い技術力と
 最新設備で
 車社会に貢献。

TECHNOLOGY & FACILITY



ニッコウ電機商会

〒990-2441
 山形県山形市南一番町11-28
 Tel.023-641-6661
 Fax.023-631-3129



環境マネジメントシステム (ISO14001)・労働安全衛生コンサル・各種環境調査

河合環境コンサルタント事務所 所長 河合直樹

- 技術士 (環境部門) ■労働安全コンサルタント ■労働衛生コンサルタント
- エネルギー管理士 ■環境計量士 ■エコアクション2.1審査員 ■環境カウンセラー

〒990-2461 山形市南館 5-6-24 TEL/FAX : 023-645-4539 Email:kawa-nao@jt8.so-net.ne.jp



心ふくらむ都市 夢ふくらむまち



環境調査



環境計量証明(騒音・振動)

建設コンサルタント・補償コンサルタント・
地質調査業・測量業・一級建築士事務所

取締役会長 大高 廣志
代表取締役 佐藤 裕之

本 社 / 天童市長岡北一丁目2番1号 ☎ 023-655-5000
山形事務所 / 山形市松波四丁目9番35号 ☎ 023-635-2814
仙 台 支 店 / 仙台市青葉区木町通一丁目7番21号星J-ポ ☎ 022-214-5585

私たちは、障害を持つ人の「完全参加と平等」を実現させるため、さまざまなサービス事業を運営し、障害のある人達が地域で働き、暮らす権利を保障するために必要な支援活動に積極的に取り組んでいます。

社会福祉法人 山形県コロニー協会

フレ、フレ! みんな!

わたしたちは、
あなたの一步を応援します。



就労継続支援事業 A 型 (雇用型)
山形福祉工場 (コロニー印刷)
〒990-2322 山形市桜田南 1-19
TEL.023-641-1136 FAX.023-641-1334
e-mail:fuku-info@yamagata-colony.or.jp

<http://www.yamagata-colony.or.jp/>



分析センター内部動画



- 分析
- 測定
- 調査
- コンサル

東北環境開発株式会社

■ 本社
〒997-0845
山形県鶴岡市下清水字打越 2 番地の 1
TEL : 0235-24-3110 FAX : 0235-24-3859
MAIL : soumu-hp@t-kan.co.jp

■ 環境分析センター
〒997-0845
山形県鶴岡市下清水字内山田 74 番地 5
TEL : 0235-26-1662 FAX : 0235-26-1663

■ 支店
酒田支店 山形支店 山形分析センター

会員皆様の御多幸をお祈り致しております。

はかり・圧力計・工業用計器及び各種材料試験機の販売、修理
調整・検査などを、主にしております。

株式会社 酒田衡器

〒998-0105
酒田市広野新田字川端割45番地の9
TEL 0234-91-1355
FAX 0234-91-1356
E-mail : sakata-kouki@triton.ocn.ne.jp